

シーン2

「リーダー、リーダー♡ 起きて下さい、リーダー!」

「あ、気がつかれましたね。よかったあ♡ もしかして、私とエッチする夢、見てたんですか？」
「それ、現実ですよ、うふふっ♡」

「ん、どうしました？」

「はい、私ですよ、戦隊のピンクです。これが私の本性なんです♡」
「そんなに警戒しないで、くふっ、リーダーの怒った顔、かわいいです♡」

「ええと、わけわかんないですよね。それじゃあ、ネタばらししちゃいますね」

「実は、前回の私が偽物でした。あれ、信じられないですか？」

「ウソじゃないですよ？ ほらあ、こうやってえ、私の一部をうねうねつと、こねまわして、はい、できた。純真無垢でエッチなピンクちゃん人形。後は保存人格を、ちゅうつと、入れてあげたら完成です♡」

「あ、ごめんなさい。ここ真暗で、人間のリーダーには、なんにも見えないですよ。私にはリーダーの様子、手に取るように見えますけど……私、この体に慣れて、気づかなかったです。てへっ、失敗、失敗♡」

「ライトをパチつと……これで見えますよね。あれ、なにか、おかしかったですか？」

「ああ、私の姿に驚いたんですね♡ 大丈夫、問題ないですよ♡」

「これが今の私、組織に改造して洗脳してもらった怪人の姿です♡」

「ピンクのぬるぬる、ところどころのボディがたまらなくドスケベで、とっても素敵ですよ♡」

「あらためまして、粘液怪人チェリー・ピンクゴム、です♡」

「よろしくお願いします♡」

「あはっ、今更驚かないで下さいよ。捕らえた敵を洗脳して、怪人に改造するのって、リーダーもよく知ってる、組織のお得意の戦法ですよ♡」

「けど、一緒に戦ってた仲間が怪人にされちゃうと、ショックですよ。リーダーの気持ちはすごくよくわかります♡」

「でもー、すっごいんですよ、洗脳改造♡」

「ほんとすごいんです♡ これえ……戦隊に居た時の記憶も感情もあるけど、それよりも組織の素晴らしさがうわまわって、さいっこの気分なんです♡」

「気を抜いたら、普段でも、このまま、イっちゃいそうなぐらい…この素晴らしさあ、ぜひ、お伝えしたいです…ね、リーダーも、組織に全身改造されましようよ？」

「人間のつまらない部品なんて捨てて、バイオパーツに変えましようよ。」

「新しいボディの素敵な爽快感を味わったら、正義の味方なんてバカらしくて、できなくなっちゃいますよ……うふふ、動けませんよ♡ リーダーの体は私の体で縛っちゃってますから♡」

「そのピンクのゴムみたいなのも私なんです♡ ほら、尻尾みたいにニルニルって伸びて自由に動かせて、変身スーツ並みにパワーを込められて、この体とても便利なんですよ」

「んもう、なにするんだって…そんなの決まってますよね」

「組織の怪人がすることなんて、洗脳以外にないじゃないですか。私がしっかり洗脳して組織に忠実な戦闘員にしあげちゃいます♡ほらあ、リーダーが今入っている装置が、組織の開発した洗脳ポッドなんですよ」

「体育館ぐらいの広さに、たくさんポッドが並んで、そのひとつひとつの中で、私の分身がエッチしてるんですよ。くすすっ」

「一般市民や組織の敵は洗脳セックス、戦闘員さんはご褒美セックスしてるんです」

「み～んな、溜めこんざザーメン、どっぴゅどっぴゅしてくれてえ……中にたっぷり出されるの、とっても気持ちいいんです♡ さいつこうすぎ♡♡」

「あ、そのままラクにして下さい。どうせ逆らってもムダ、ですから。」

「前はリーダーも初めてでしたから、昔の私の身体でセックスさせてあげましたけど、ちゃ～んと洗脳始めないと、組織のエライ幹部さんから怒られちゃいますし♡」

「今度は粘液怪人チェリー・ピンクゴムの能力で、思うがままにリーダーを、えろろく食べ尽くしちゃういま～す。」

「んんっ…口では色々言ってましたが……リーダーのおちゃんぽ、ガッチガチで準備万端じゃないですか♡ ほら、私のオマンコ穴とつてもとろとろでしょ♡ シックスナインでお互い味見しましょうね♡」

「あむ、はむむ、んちゅぶ、ちゅばちゅぶ、んんっ、もうガチガチですね♡ ちゅばちゅぶ♡ ほらあ、チェリー・ピンクゴムの怪人まんこからも、たっぷりリーダーを発情させる、ラブジュースう、だからお顔のうえに、んえ、んええ、垂れ流しちゃいますねえ、あえ、あええ、あふええ…」

「それじゃ、ちゅばちゅぶちゅぶ、んちゅぶう、ピンクゴムのねっとりフェラれえ、射精させてあげますね♡ んれろ、れろろ、先っぽも、れろおれおろお。」

「張ったエラの内側も、んれるれろ、れろびちゅ、舐めまわしていきまふう♡ あぶ、はぶう、リーダーには、皮膚から直接、増精剤や興奮剤を投与しますから、ちゅばちゅぶちゅぶ、勃起状態が収まることはないですよ、んじゅるれろ、れろろっ♡」

「ちゅば、ちゅぶちゅぶ♡ いくら出しても、あぶ、はぶぶ、んれろれる♡ ギンギンにそそり勃ったままれえ、ずっと気持ちいいままれすからあ♡」

「ちゅばちゅばちゅぶ♡ ちゅぶぶ♡ おひんぼ、ビクビク跳ねへえ、あとちよろお♡ ちゅぶじゅばちゅぶ♡ ほらあ、出して出して、リーダーのとうとうのザーメン、びゅるびゅる♡、私のお口に気持ちよく、吐き出しへえ♡♡」

「ちゅばちゅぶちゅば、んちゅる、ちゅるる、ちゅるるるる♡♡ ツ♡♡」

「あぶ、んぶぶ、濃厚なせーしい、んく、んくんく、んくっ…けふ…っ♡」

「んじゅる♡、溢れた精液もつたいないです♡ ちゅ、ちゅる、全部、啜って、れろお、舐めとります♡ リーダーも私のエッチなお汁堪能できました？ 出来ましたよね♡ そんなにお顔ビショビショで味わってくれて嬉しい♡」

「それじゃ、体勢を変えてえ、ドロドロおまんこで勃起したままのリーダーオチンポ、頂きまゝす♡ あ、ああ、ぶっといの、奥までえ、お、おお、 遅いオチンポ最高♡ さすが正義のヒーローの男性器、すごいです♡」

「実は今まで、市民チンポ百本つぐらい、あお、あおう、食べて楽しんでましたが、リーダーのオチンポ、やっぱり別格♡♡」

「んぶ、もちろん最初は無理やりですよ♡」

「天野沙月って、つまらない女子だったときの、どーでもいいモラル、ぜゝんぶ投げ捨てて、チェリーピンクゴムとしての、あ、ああ、怪人ライフ♡、楽しいんですよ♡」

「毎日、市民とやりまくって♡ とうとうに洗脳してあげて♡ んい、んい、今のリーダーと同じで、いやがりながらも、オチンポ悦んで、お、おお、最後は洗脳射精しちゃいますから♡」
「私自身も、こんなに自分が、おふ、おふお、おほおお、淫乱ビッチだったなんて、思いもしなかったです♡ くひ、んひ♡」

「でも、今は毎日、最高のセックス、楽しんでます。リーダーも、また出しちゃいますね、ほら♡」
「どんなに強靱な意思があっても、この快楽には勝てないんですよ♡」

「ほら、ほらほらほら、びゅゝびゅゝびゅゝびゅるるゝピンクゴムのドスケベまんこに、熱々の種汁う、バキュームされちゃええッ！」

「あああああつ、ドロドロのヤツ♡…直でそそがれるのは違いますね♡」

「すっごい…二回目なのにたくさん、どびゅどびゅっ♡ とうても濃くて熱い♡♡」

「んもう、しっかりして♡ 二回も、びゅるびゅるって、怪人である私に射精させられるなんて、戦隊のリーダーとして、どうなんですか、くすすっ♡」

「じゃあ、ん、んんっ、おまんこからオチンポを抜いてえ、今度は…はい、お尻の穴で勃起をシコシコしてあげますね♡」

「何驚いてるんです？ 粘液怪人なんですから穴という穴は全部おちんぼ入れてもらうための穴に決まってるじゃないですか♡ ほら、オマンコ穴と違ってぎゅって締め付けて搾り取るアナルで、オチンポ加えこんじゃいまゝす♡ おふお、おほおお♡」

「中で、つるつるの直腸粘膜が絡みついて、すごいでしょう」

「お、おお、私は、ゴム怪人なのでオナホみたいな形にもできるけど、リーダーとの初アナルを記念して、人間だったころのお尻の穴、再現して、「お、おお、リーダーのオチンポ、味わっちゃってるの、ふお、おふお♡」

「んふ、リーダー、こっちからも失礼しますね♡」

「新しくできた分体でゝす、お耳を舐めていきまゝす、れろ、れろちゅば♡」

「お、おお、アナルすゝ♡ 私、怪人になったから、いっぱいばい、十でも百でもゴピー生やせちゃうんです♡ おふ、ほふう、こんなふうにい♡」

「んふ、リーダーはじめまして、んれろ、れろる、こちらのお耳も唾液たっぷりに、舐めまわしていくから」

「じゅるれろ、れろちゅぶ、んちゅぶ♡」

「リーダーがとろとろんなるまでえ、左右からWでお耳のおしやぶりい、んじゅるれろ、れろちゅぶ♡」

「んんんっ、もう一体ぐらい、いけそうよね、お、おおっ、オチンポ、すゝ♡」

「んふ、どうも♡」

「私は、リーダーのお顔に跨って、顔面騎乗いい、んい、んい♡ 苦しそうな感じ、最高♡」

「で、手で乳首をくゝにくに、くにに、たくさんいじっちゃいます」

「それ、それそれ♡」

「あは、乳首いじられて感じてるんですね、かわいい♡」

「情けないリーダーの声、もつと聞かせて下さい♡」

「ほらほら、オチンポも、もつと勃起させて♡」

「いっぱいアナルで扱いて、射精させてあげますから♡」

「お、おお、アナル、いいッ、いいの♡」

「くふ、んふう、ね、リーダー、腰ビクビクしてえ、」

「怪人の私に負けて、敗北射精しちゃうんですか、くすす♡」

「尊敬するリーダーが、そんな情けないことないですよね」

「尊敬するリーダーが、そんな情けないことないですよね」

「もっと頑張れますよね♡」

「あ、ああ、リーダー、おまんこ汁、吸りすぎい、あん、あん、お返しに乳首を、もっとグリグリ、激しくしてあげますっ!」

「あ、私のおまんこの下に顔があるから、リーダーの状況、わかんないですよね、んい、んい♡」

「けど、気持ちいいから、ドロドロおまんこも、もっと、ぐちゅぐちゅ、押しつけちゃいますっ!」

「くひ、んひい、それぞれえ、そそり勃った乳首も」

「同時に、ぐりっ、ぐりっ、ぐりり、ぐりりっ♡」

「お、おおっ、オチンポもお顔も乳首も耳も、全身責められすぎて、わけわかんないですよね!」

「正義のリーダー、大変そうです♡」

「私も騎乗位のまま、ああ、ああおっ、もっとドスケベな腰振りロデオダンス、踊っちゃいます♡」

「お尻の奥まで遅いの当たって、お、おお、いい、いいの、気持ちいい♡ もっと激しいの、下さいっ♡」

「どこまで、耐えられるか、楽しみです♡」

「どこまで、耐えられるか、楽しみです♡」

「もっと奥の方まで、じゅぼじゅぼ、しちゃいますね♡」

「私もドロドロまんこ、ぐちゅぐちゅう、窒息しそうなぐらい押し付けながらあ…あ、ああ…」

「勃起した乳首をつねってえ、ぐりっ、ぐりぐり、ぐりりりっ♡」

「ほらあ、しっかりして♡ 戦隊のリーダーなんですよね!」

「簡単に負けちゃダメですよ」

「ほらほらあ、リーダー、しっかり♡」

「ほらほらあ、リーダー、しっかり♡」

「頑張れ、頑張れっ!」

「おひ、ふひい、腰の突き上げ、すごくなって、もう射精寸前のムーブ、キメちゃってますね♡」

「お、おお、中でオチンポ、ビクビクっ、もう限界みたいですよ♡」

「それじゃ、んひ、ふひい、とどめさしてあげます♡」

「元ピンクに全身凌辱されて、イキまぐって下さいね!」

「じゃ、みんな、リーダーのこと、一気に責め堕としちゃおっ!」

「はっい!」

「はっい!」

「イケっ、イケイケイケ、気持ちよくなっちゃえ、」

「びゅるびゅるザーメン出せ、情けなくお漏らし射精して♡」

「びゅるびゅるびゅる、びゅるうっ♡」

「正義戦隊のリーダーなのに、粘液怪人チェリー・ピンクゴムに負けて、洗脳射精しちゃってえっ♡♡」

「あんんっ、たくさん出ましたね」

「けど三回目の射精でも、洗脳度20%までいつてないんですね」

「さすがリーダー、頑張りますね。これは墮としがいがありそうです。いっぱい楽しませて下さいね♡んふふふっ」